

『NC機作業者のための加工技術』コースの展開

—ME化時代の現場ニーズに応える向上訓練コース開発（第2報）—

ME化時代の現場ニーズに応える
向上訓練コース開発プロジェクト

序 文

ME技術革新が喧伝されてすでに久しい。それに対応する様々な向上訓練コースも各公共訓練施設で計画され、実施されてきている。だがNC工作機械にみるように、それが中小企業も含めて、広範に普及し、企業現場に定着してしまっただけには、その取り扱い方法を中心にしたコースだけでは地域企業のニーズに応えきれないという問題が生じてくる。ME機器の高度な活用という新たな課題が、企業にとっては死活問題となっていくからである。

昭和62年度に発足したこのプロジェクトは、機械加工の分野を取り上げて、上記のようなME化の進展の先に登場してくる向上訓練ニーズをとらえたコース開発を目指した。それは、単にNC機の操作法の訓練ではなく、切削加工のノウハウを深め、NC機を高度に使いこなせるようになることを目標とするコースとなった。プロジェクト作業2年目の昭和63年度には、それを「NC機作業者のための加工技術」コースとして設計し、実施した。地域企業の反響は大きく、コースは大成功であった。

本報告書は、この2年目のプロジェクト作業を取りまとめたものである。詳しくは報告本文を参照されたいが、今回実施したコースの内容は、大企業も含めて今日企業の現場に進行している、「一方でME言語は解するが加工等の作業内容についての判断力は不十分な若手作業者の増加、他方で加工技術面では多くの経験の蓄積を持ちながらME技術にそれを生かせないベテラン」というギャップを、公共職業訓練の蓄積したノウハウを生かすことによって埋めようとするものである。この内容は、現代ME技術下の生産におけるいわばソフトとハードの融合教育であり、よく言われる「産業空洞化」と共に懸念される、技術力の空洞化に対する教育面からの基本対策と位置づけられる。したがって、今後の技術革新の中での、向上訓練のひとつの重要なタイプとして可能性が期待されるコースであると思われる。

指導員の先生方を始め、関係各方面からの率直なご意見、ご批判をお願いしたい。

2年にわたってプロジェクト研究にご協力いただいた、松本技能開発センターの、所長をはじめとする職員の方々に、誌上を借りて、厚くお礼申し上げます。

平成元年2月

職業訓練研究センター

所長 多賀谷 敏夫

研究プロジェクトメンバー

研究委員

御子柴庚一（松本技能開発センター 指導員）

大村 勤（松本技能開発センター 指導員）

杉本 令而（松本技能開発センター 指導員）

西沢 史次（松本技能開発センター 指導員）

田中 萬年（職業訓練大学校 指導科助教授）

職業訓練研究センター

開発研究部

藤沢 翼也（機械系訓練研究室 室長）

高田 芳紀（機械系訓練研究室 研究員）

基礎研究部

小原 哲郎（訓練需要研究室 研究員）